

「税って、何色？」

学校法人安田学園安田女子中学校 3 年 福島 果歩

「税って、何色だと思う？」

この問いに多くの人は「灰色」や「黒っぽい」と答えるのではないだろうか。それは税に対する「難しそう」、「堅苦しそう」、「よくわからない」などのイメージからきているのではないだろうか。しかし、学んでみると、実はもっとたくさんの「色」があることに気づく。

税のある景色には、いろんな色があった。一番分かりやすいのは「赤」。命を守るための消防車や救急のサービスも税によって動いている。「緑」も分かりやすいのではないだろうか。ゴミの収集や環境整備などのエコ活動も税によって動いている。他の色も探してみよう。例えば「オレンジ」。オレンジは防災対策や地域の支援が浮かぶ。世界初の津波防災プロジェクトにも「オレンジ」はキーカラーとして使われている。その他にも防災バッグといえは「オレンジ」が連想されるのではないだろうか。災害時のニュースでみる救護隊もオレンジの服を身に着け、税によって動いている。私たちに一番身近な、学校教育は希望の光のような「黄色」。ここにも税は使われている。このように、少し見方を変えるだけで、税は色鮮やかになる。

私たちが今、生きている、与えてもらっているのは「色のある未来」だ。しかし、これからは「知ること」で、自分も色を選び、重ねていく立場になる。歳を重ね、私たちが与える立場になるとき、この世界が、未来が色鮮やかであるために、私たちは税について学ばなければならない。税を学ぶこと、それは社会を塗っていく「筆」を持つことなのかもしれない。

あなたにとって、税は何色だろう？

私にとって税は、白色。白色は、求める人々のために、どんな色にでも変わることができる。それはつまり、筆を取る人々によって、暗くも明るくもできる、ということだ。税の恩恵は人によって受け方、大きさが異なる。そこで生まれる格差や考え方は、簡単に解決できるものではないし、助け合いの精神に基づく面から、とても難しい問題だと思う。しかし、一人一人の税に対する「色」の違いはそういった問題からくる面も大きいだろう。だからこそ、私たちが色を塗る立場になったとき、暗い色の印象を持つ人々を少しでも明るい色の印象へと塗り重ねていけるように、未来を描くために、私は税を学んでいきたいと思う。